
酒場で少年。

too

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

酒場で少年。

【Nコード】

N5269Z

【作者名】

too

【あらすじ】

少年が荒野にある酒場に入り、飲み物を注文し、怒られる話です。

少年が店に入った。外には大型自動二輪車が四台止まっていた。

店は荒野広がるロードサイドにある酒場で、古びた木造建築、三段ある階段を登ったところに狭いデッキがあり、一つ丸いテーブル、椅子が二つ並ぶ。窓は磨かれておらず、くすんでいる。色褪せた鉄製の看板が風にさらされて揺れる。

辺りに他の店はなく連なる電信柱と乾いた草、木、晴れ渡る空と遠くに山脈が見えるだけである。誰も走っていない道が地平線の向こうまで延びていて、風が砂埃を創っている。

建て付けの悪い扉を開いたら、酒の香りとタバコの煙、ホコリと火薬の匂いが出迎えた。昼間なのに薄暗く、清潔ではない。

少年は眼だけで辺りを見回しながら歩く。テーブルの端が削れ、傷の上から何度も塗り重ねた跡がる。弾痕のような穴が三つ、脇にある棚にあった。

バイク持ち主たちだろう、テーブル席に四人いた。酒を飲み、タバコを吹かしながらトランプを楽しんでいる。スペードのクイーンが見えた。

少年は彼らを横目で確認し、カウンターに向かい、椅子に腰掛けた。グラスを磨いていたマスターがやってきて、注文わ、と面倒くさそうにしゃがれた声で言った。少年はすぐにこたえず、狭いカウンターのの中を見た。

カウンターの後ろには沢山の酒がある。店は汚いが酒だけは綺麗にそろっていた。気の利いた音楽もなく、接客も悪い、なのに酒だけは充実していた。窓から入る光がガラスの中の液体に射し込み、輝かせる。宝石にも劣らない魅力的な輝きがある。

「オレンジジュースを一杯」と、黙ったままの少年が言った。空気が止まり、テーブル席から下品な笑い声が聞こえてきた。マスターが更に不機嫌面になり、

「バカ野郎。ここは酒場だ、酒を頼め、ガキが。ガキは家に帰ってママのミルクでも吸ってろ」と、言った。テーブル席から笑い声が聞こえる。

「じゃあ、あなたは家に帰ってパパのミルクでも吸ってろ」と、言い残し、少年は店を出て行った。扉を閉める時、良いぞ少年、とテーブル席から賛辞が送られた。

少年は店を出て、真直ぐ地平線まで延びる道を歩き出した。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5269z/>

酒場で少年。

2011年12月17日21時48分発行